

体組成分析装置（BCM）の維持血液透析患者における有用性

長崎腎病院

○井手真吾 林田征俊 矢野利幸 高木伴幸 澤瀬健次 李 嘉明 原田孝司
船越 哲

【背景・目的】 BCM は、非侵襲的に体水分量を推定する分析装置である。今回、維持透析患者の心負荷指標として、BCM による体水分量の意義を検討する。

【対象・方法】 透析前後に BCM にて、体水分量を測定し、生化学検査や胸レ線・心エコーとの相関及び、体液不足 ($\leq -1.0L$)・体液過剰 ($< 1.0L$) の 2 群に分け群間比較を行った。

【結果】 体水分量と EF に弱い負の相関が認められた。体水分量と LVMI に弱い正の相関が認められた。体水分量と SBP・NT-proBNP・hANP に中等度の正の相関が認められた。

群間比較において CTR・SBP・NT-proBNP・hANP は体液過剰群でいずれも有意に高値であった。

【考察】 今回の検討より、BCM による測定値は、特に体液過剰患者の心負荷指標や適正 DW 検討指標としての一つのツールとして有用である可能性が示唆された。今後、他の血液透析関連因子との関連性もふまえ、更なる体水分量管理に BCM を検討したい。